

学生の確保の見通し等を記載した書類

第1 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1 学生の確保の見通し

(1) 定員充足の見込み

本大学院の入学定員を設定するにあたっては、まず、本学に大学院（修士課程）が設置された場合の入学希望の状況等を把握するため、山形県栄養士会会員、本学在学学生1～3年生、山形大学地域教育文化学部食環境デザインコース（栄養士養成課程）在学学生1～4年生を対象に「山形県立米沢栄養大学大学院」の設置に関するアンケート調査を実施した（資料1・資料2・資料3）。

山形県栄養士会会員へのアンケートでは、本学大学院への入学について、「入学を希望する」との回答が7名、「仕事との両立ができれば入学を希望する」との回答が56名あった。本学在学学生へのアンケートでは、現時点（開学3年目のため、最高学年が3年生であり、ほとんどの学生がこれから本格的に卒業後の進路を考え始めようとしている段階）での本学卒業後の進路として3名（3年生1名、2年生2名）が大学院進学を考えており、そのうち1名（3年生）から本学大学院への進学を希望するとの回答があった。山形大学在学学生へのアンケートでは、卒業後の進路として、9名が大学院への進学を考えており、そのうち1名から本学大学院への進学を条件によっては視野に入りたいとの回答があった。

また、本学及び山形大学の在学学生に対し、将来社会人を対象とした大学院への進学希望を尋ねたところ、「進学を希望する」、「機会があれば希望する」、「就職後、必要性を感じた場合は希望する」、「仕事と勉学との両立できれば希望する」の回答を合わせると、ともに約6割の在学学生から大学院進学に関心を示す回答があり、将来的なことも含めると、潜在的に大学院への進学を希望する学生が多いことが分かった。

次に、本学の規模、教育可能な人数を考える際の参考として、東北地方の栄養系他大学院の入学定員の設定状況を調査した。東北地方には、本学を含め管理栄養士を養成する大学が9校あり、そのうち栄養系大学院を有するのは、青森県立保健大学、宮城学院女子大学及び尚絅学院大学の3校だった。これら3校合計の学部入学定員（編入学者数を考慮し入学定員を算出）は213名であり、それに対し、3校合計の大学院修士課程入学定員は12.5名であった（資料4）。

この東北地方の栄養系大学院修士課程の入学定員である12.5名は、学部の入学定員である213名の5.9%の割合であり、この割合を本学の学部入学定員42名に対して当てはめて算出すると大学院の入学定員は2.5名となった。

さらに、本大学院修了生の受け皿となる県内の病院・施設・食品企業等及び市町村へ、採用意向アンケート調査を実施し、本大学院修了生の採用の意向を尋ねたところ、「積極的に採用したい」が3事業所・1自治体、「採用を考えたい」が10事業所・3自治体、「状況によって採用を考えたい」が44事業所・14自治体となり、本大学院の修了生に対する採用ニーズも入学見込者数に対して十分であることも分かった（資料5・資料6）。

このようなことから、アンケート調査による入学希望者数、本学で教育可能な学生

数及び修了生の継続的な受け皿なども考慮したうえで、社会人及び在学学生を合わせた入学定員を3名と設定した。

(2) 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

本大学院を設置した場合の進学・入学希望や設置への期待について把握するため、社会人学生としての入学が期待される山形県栄養士会会員、大学卒業後や将来的な入学が期待される本学学生や山形大学の栄養士養成課程に在籍する学生を対象とし、本法人が調査主体となり、次のとおりアンケート調査を実施した。

① 山形県栄養士会会員に対するアンケート調査（資料1）

山形県栄養士会の協力のもと、全会員である667名を対象として、本大学院設置の趣旨や概要の説明資料を添付したうえで、郵送によるアンケート調査を実施し、273名（回答率：40.9%）から回答を得た。その結果、本大学院への入学を希望するか否かを尋ねた設問に対しては、「入学を希望する」が7名（2.6%）、「仕事との両立ができれば入学を希望する」が56名（20.5%）と、合わせて63名から入学を考えているとの回答を得ており、入学する可能性のある社会人が非常に多いことが分かった。大学院に入学したい理由の第1位としては、「更に高度な知識・技術を身に付けたいから」が49名（77.8%）、「研究に取組み、専門性を深めたいから」が5名（7.9%）という結果であり、栄養系の大学院に入ってスキルアップを図りたい社会人が非常に多いことが分かった。大学院進学希望者に、大学院に入学するうえで最も重視することを尋ねたところ、「研究・指導の内容」が28名（44.4%）、「職場からの支援」が11名（17.5%）、「夜間・休日の受講による修了」が10名（15.9%）という回答であった。

また、自由記載欄には、「より多くを学べる大学院はやはり今後必要だと感じます。」「高度な知識・技術を身に付けた会員が、県の栄養士会を牽引してくださることを期待します。また、それが可能な人材を育成して頂きたいです。」「大学院ができること、大変喜ばしく思います。おいしい物がたくさんある県“山形”が食と栄養で強くつながり、全国に発信できるといいですね。“食は、命で、喜び”です。県民の健康づくりに貢献できる人材育成に寄与されることを期待いたします。」

「社会での管理栄養士、栄養士の存在が大きくなり、人類の健康を守り続けていくために大学院設置に期待を寄せています。私達をグイグイ引っばっていくリーダーを育成していただきたいです。」「期待しております。知識を身につけることももちろん大事ですが、人間力、社会人を備えた人材を育成していただくことを希望いたします。」「卒業生が優秀な人材として評価されることを期待している。新たに求められる管理栄養士の役割は世の中の変化とともに必ず存在している。それに応えられる高度な能力技術を学べる場が大学院であることを願っている。」「県民の健康な暮らしに寄与できるような人材の育成のためにも高度な教育、知識を得る機関の設立はとても有意義であると思います。」「大学院の設立で他県に劣らないように、より高度な知識や技術を身に付けた管理栄養士が育成され、山形県からいろいろな事で発信できるようになればと思います。」などといった大学院開設に期待し、関心を示す意見が数多く寄せられている。

さらに、県内の病院・施設・食品企業等代表者及び市町村健康づくり主管課へのアンケート調査（資料５・資料６）では、勤務している管理栄養士・栄養士が現職のまま大学院に入学する場合の対応として、病院・施設・食品企業等では約９割が、市町村健康づくり主管課では約７割が許可するとしており、社会人を大学院に学生として送り出す側でも職員等の入学への支援に前向きであることが分かり、入学に関心のある社会人の職場環境の面からも社会人の入学が期待できると言える。

② 本学在学生に対するアンケート調査（資料２）

本学健康栄養学部健康栄養学科の全在学生（１～３年生、130名）を対象として、教員が本大学院設置の趣旨や概要を説明したうえでアンケート調査を実施し、128名（回答率：98.5%）から回答を得た。その結果、本学卒業後の進路として、「大学院進学を希望する」との回答が３名（３年生１名、２年生２名）（2.3%）あり、そのうちの１名（３年生）は、設置準備中の本大学院への進学を希望するとの回答であった。その３名が大学院に進学したい理由として、１位に選んだのはいずれも「更に高度な知識・技術を身に付けたいから」であった。

また、現時点では、本学卒業後の進路として就職を希望している在學生に、将来の社会人対象の大学院への進学希望を尋ねた設問に対しては、「進学を希望する」が２名（1.6%）、「機会があれば希望する」が12名（9.8%）、「就職後、必要性を感じた場合は希望する」が45名（36.6%）、「仕事と勉学との両立できれば希望する」が14名（11.4%）であり、将来的な大学院への進学について、約６割が関心を持っていることが分かった。

さらに自由記載欄には、「大学院ができて高度な研究が進めば、入学希望者も増えると思うのでいいと思います」「働きながら通えるのなら、ぜひ進学して学びたいと考えています」「進学してみたいという考えもありますが、先輩（院の）がないので、想像ができずに将来が考えづらいです。」などといった大学院開設に関心を示す意見が多く寄せられており、また、現時点では、本学卒業後就職を希望している学生でも学年進行とともに、大学院での教育研究内容の詳細や進学した場合のメリット等が明確になるにつれ、進学を希望する者が増えてくるとも見込まれる。

③ 山形大学在学生に対するアンケート調査（資料３）

山形大学地域教育文化学部食環境デザインコース（栄養士養成課程）の全在学生（１～４年生、142名）を対象として、本学で非常勤講師を務める山形大学教員の協力のもと、アンケート調査を実施し、133名（回答率：93.7%）から回答を得た。その結果、大学卒業後の進路として、「大学院進学を希望する」との回答が９名（6.8%）あり、そのうちの１名から、現在設置準備中の本大学院への進学を条件によっては視野に入れたいとの回答であった。また、その９名が大学院に進学したい理由として、１位に選んだのは「研究に取組み、専門性を深めたいから」であり、２位に選んだのは「更に高度な知識・技術を身に付けたいから」であった。なお、現時点では、大学卒業後の進路として就職を希望している在學生に、将来の社会人

対象の大学院への進学希望を尋ねた設問に対しては、「進学を希望する」が3名(2.4%)、「機会があれば希望する」が9名(7.3%)、「就職後、必要性を感じた場合は希望する」が47名(37.9%)、「仕事と勉学との両立できれば希望する」が10名(8.1%)という回答があり、将来的な大学院への進学について、約6割が関心を持っていることが分かった。

(3) 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、年間授業料を535,800円、入学料を282,000円と設定する。これらの金額は、国立大学と同額である。ただし、県立の大学大学院として、県内出身者の入学を促進する趣旨から、県外出身者の入学料については564,000円と設定する。

なお、授業料及び入学料の金額並びに県外出身者の取扱いについては現在の本学学部生及び県内の別法人が運営する公立大学である山形県立保健医療大学大学院(修士課程)と同じである。

2 学生確保に向けた具体的な取組み状況

学生確保の取組みは、現在の本学学部と同様の方法で実施することに加え、在学生からの進学者確保や社会人が入学しやすい環境整備を図ることとしている。

広報活動については、大学とは別に大学院案内パンフレットを作成し、募集要項とともに山形県栄養士会、学部の実習先施設を中心とした県内の病院や福祉施設等及び食品関連の企業に配布するほか、大学のホームページに掲載するとともに、本県出身者で県外の栄養系大学を卒業する者も含めて広く募集を行うこととしている。また、オープンキャンパスの際には、学部とは別に、大学院のガイダンスを実施するとともに、個別相談も受けることとしている。

さらに在学生からの進学者を確保するため、大学院の概要や進学した場合のメリットを説明するセミナー等を随時開催するなどの取組みも行うこととしている。

加えて、入学が多くなると予想される社会人のため、就業している者等も修学しやすくなるように、社会人履修制度と長期履修制度を実施することとしている。

社会人履修制度は、学部生の最終の授業時間が5時限(16:20～17:50)であるところ、大学院生に限って夜間の講義のコマ数を拡大し、6時限(18:00～19:30)及び7時限(19:40～21:10)を設定するものであり、この6・7時限と土曜日のみの受講により修了を可能とするものである。また、大学院生の希望により、夏期休業期間中等の集中講義を設定することも予定している。

長期履修制度は、大学院生が、職業を有していること、介護・育児等に従事していること等の事情により、標準修業年限では履修が困難な場合であって、標準修業年限を超えて一定の期間にわたり計画的に教育課程を履修し課程を修了することを希望する時に、その計画的な履修を認める制度である。この場合、標準修業年限を超えた期間の授業料は免除することとしている。また、この制度は、入学時に申請できるほか、入学時と事情が変わった場合に対応するため入学後の申請も可能としている。なお、長期履修の期間は、入学時の申請の場合、最長3年とする。

第2 人材需要の動向等社会の要請

1 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本大学院は、健康栄養科学に関する高度な学術の理論及びその応用を教授研究することにより、学術研究を推進するとともに、基礎健康栄養科学領域又は実践健康栄養科学領域における指導的役割を果たす人材を育成し、教育と研究の成果に基づき、地域と社会に貢献することにより、県民の健康で豊かな暮らしの実現に寄与することを教育研究上の理念としている。

この理念のもと、①健康栄養科学に関する高度な専門知識と専門技術とともに、コミュニケーション能力を有する、②地域健康栄養課題を的確に把握し、解決の方策を見いだすための研究方法を身に付けた、③健康栄養科学領域において、指導的役割を担うことができ、地域と社会及び学術の発展に貢献できる人材の育成を教育目標としている。

本大学院を修了した者は、①管理栄養士・栄養士に必要とされる知識・技術を発展させ、より高度な健康栄養科学に関する専門知識と専門技術、②地域健康栄養課題を発見し、その課題解明や解決のための研究活動を行うことができる能力、③健康栄養科学領域において、コミュニケーション能力と実践力を発揮しつつ、指導的立場に立てる能力を身に付けることにより、病院、施設、行政及び食品企業等の実践現場で指導的役割を担う人材として、また、教育・指導や専門的な業務への従事に必要な研究能力を持つ人材として活躍できると考えられる。

2 上記1が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

本大学院を設置することに対する地域からの期待や本大学院修了生の採用意向等について把握するため、次のとおり関係者に対してアンケート調査を実施した。

その結果は次のとおりであり、本学に大学院を設置することは、社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであると言える。

（1）病院、施設及び食品企業等に対するアンケート調査（資料5）

管理栄養士・栄養士の勤務先である県内の病院、施設及び食品企業等 135 事業所の代表者に対して、本大学院設置の趣旨や概要の説明資料を添付したうえで郵送による本大学院設置に関するアンケート調査を実施し、81 事業所（回答率：60%）から回答を得た。

現在勤務している管理栄養士・栄養士の知識やスキル向上の必要性を尋ねた設問では、「必要と思われる」が 21 事業所（25.9%）、「必要とやや思われる」が 28 事業所（34.6%）と合わせて 49 事業所（60.5%）であり、管理栄養士・栄養士の知識やスキル向上の必要性を多くの事業所で感じていることが分かった。事業所側にとっての本学に大学院を設置することの必要性を尋ねた設問では、「必要と思われる」が 16 事業所（19.8%）、「必要とやや思われる」が 35 事業所（43.2%）と合わせて 51 事業所（63%）であり、半数を超える事業所で本学に大学院が設置されることについてのメリットを感じていることが分かった。本大学院に望む人材の育成については、「高度専門知識を

有し、現場で指導的役割を担う人材」が最も多く、次いで「専門的な業務への従事が必要となる研究能力を持つ人材」が多かった。

また、現在勤務している管理栄養士・栄養士が現職のまま大学院に入学する場合の対応を尋ねた設問では、「積極的に許可する（制度等有り）」が5事業所（6.2%）、「許可する」が13事業所（16.0%）、「状況によっては許可する」が51事業所（63.0%）、と合わせて69事業所（85.2%）であり、9割近くの事業所で職員等を大学院へ送り出すことを許可するとしており、社会人が大学院へ入学しやすい環境が整っていることが分かった。

さらに、採用の意向を尋ねた設問では、「積極的に採用したい」が3事業所（3.7%）、「採用を考えたい」が10事業所（12.3%）、「状況によって採用を考えたい」が44事業所（54.3%）と合わせて57事業所（70.3%）であり、非常に多くの事業所が本学大学院修士の採用に関心を示していることが分かった。

加えて、自由記載欄には、「病院の管理栄養士業務は常に学生時代には学んでこなかった新しい知識や技術が必要とされる状況になっています。又、チーム医療のリーダー的役割を担う人材も求められています。ぜひ大学院でこのようなリーダーシップが発揮できる人材を育成していただければと思います。」「高齢化社会の訪れとともに管理栄養士に求められる指導内容も高度化・複雑化しており、それに対応できる人材育成に重点を置いた教育内容であってほしい。」「食品メーカーの立場からすれば、食に関する高度専門知識を有し、指導的役割を担う人材を育成する教育機関が設置されることは大変望ましい。」「より深く専門的な事を学ぶ機会が増えるのであれば、大学院設置は学生にとってありがたいと思います。施設にとっても採用することでメリットも多くなると感じました。」「栄養健康分野の高度専門知識を有する学生だけでは困る。現場の課題に向きあい、指導的役割を担える、業務実践力の高い人材。食の現場では、関わる人をコーディネートする能力も絶対必要で、様々な気づきや配慮ができる人材だと有難い。」「専門職として科学的根拠に裏づけされた高度な技術が必要であり、それには生涯にわたり、高い知識と技術を維持向上することが求められます。そのような機関が県内にできるのは大変有意義だと思います。」などといった大学院開設に関心を示し、期待する意見が多く寄せられており、これらの意見は本大学院の教育研究上の理念や教育目標と合致するものとなっている。

（２）市町村健康づくり主管課に対する調査（資料６）

県内の35市町村の健康づくり主管課を対象として、大学院設置の趣旨や概要の説明資料を添付したうえで郵送による本大学院設置に関するアンケート調査を実施し、28自治体（回答率：80%）から回答を得た。

現在勤務している管理栄養士・栄養士の知識やスキル向上の必要性に関する設問では、「必要と思われる」が15自治体（53.6%）、「必要とやや思われる」が7自治体（25.0%）と合わせて22自治体（78.6%）であり、管理栄養士・栄養士の知識やスキル向上の必要性を8割近くの自治体で感じていることが分かった。自治体側からみての本学に大学院を設置することの必要性の設問に対しては、「必要と思われる」が9自治体（32.1%）、「必要とやや思われる」が14自治体（50.0%）と合わせて82.1%であり、

8割を超える自治体で本学に大学院が設置されることのメリットを感じていることが分かった。本大学院に望む人材の育成については、「高度専門知識を有し、現場で指導的役割を担う人材」が最も多く、次いで「専門的な業務への従事に必要となる研究能力を持つ人材」が多かった。

また、現在勤務している管理栄養士・栄養士が現職のまま大学院に入学する場合の対応を尋ねた設問では、「積極的に許可する（制度等有り）」が1自治体（3.6%）、「許可する」が4自治体（14.3%）、「状況によっては許可する」が15自治体（53.6%）、と合わせて20自治体（71.5%）であり、7割以上の自治体で職員等を大学院へ送り出すことを許可するとしており、社会人が大学院へ入学しやすい環境が整っていることが分かった。

さらに、採用の意向を尋ねた設問では、「積極的に採用したい」が1自治体（3.6%）、「採用を考えたい」が3自治体（10.7%）、「状況によって採用を考えたい」が14自治体（50.0%）と合わせて64.3%であり、非常に多くの自治体が本学大学院生の採用に関心を示していることが分かった。

加えて、自由記載欄には、「当町にとって管理栄養士の存在は、地域で生活する個々の人々の生活に寄り添って支援することです。知識やスキル向上はもちろん大切なことですが、住民に密着した仕事のできる栄養士であるための教育が必要だと思います。」「専門性だけでなく、社会性、人間性が豊かな人材を育成していただきたいと思います。」「大学院を設置することで、専門的なことや県内の栄養課題の改善のための具体策などの情報や手法などについて、情報提供、指導いただければと思います。」などといった大学院開設に関心を示し、期待する意見が寄せられており、地域からも本大学院で育成しようとしている人材が求められていることが分かった。

資 料 目 次

資料 1	・ 大学院設置に関するアンケート調査【入学意向調査結果（山形県栄養士会会員）の概要】 ・ 大学院の設置に関するアンケート調査依頼文・調査票【入学意向調査（山形県栄養士会会員）】
資料 2	・ 大学院設置に関するアンケート調査【進学意向調査結果（米沢栄養大学在学学生）の概要】 ・ 大学院設置に関するアンケート調査依頼文・調査票【進学意向調査（米沢栄養大学在学学生）】
資料 3	・ 大学院設置に関するアンケート調査【進学意向調査結果（山形大学在学学生）の概要】 ・ 大学院設置に関するアンケート調査依頼文・調査票【進学意向調査（山形大学在学学生）】
資料 4	・ 東北地方の管理栄養士養成大学及び大学院の入学定員一覧
資料 5	・ 大学院設置に関するアンケート調査【採用意向調査結果（事業所）の概要】 ・ 大学院設置に関するアンケート調査依頼文・調査票【採用意向調査（事業所）】
資料 6	・ 大学院設置に関するアンケート調査【採用意向調査結果（市町村）の概要】 ・ 大学院設置に関するアンケート調査依頼文・調査票【採用意向調査（市町村）】

「山形県立米沢栄養大学大学院」の設置に関するアンケート調査 【入学意向調査結果（山形県栄養士会会員）の概要】

1 調査概要

（１）調査主体

山形県公立大学法人

（２）調査目的

「山形県立米沢栄養大学大学院」の設置に向けて、山形県栄養士会会員を対象に、本大学大学院への入学意向を把握することを目的とする。

（３）主要調査項目

- 山形県立米沢栄養大学大学院への入学希望
- 山形県立米沢栄養大学大学院への入学理由
- 大学院へ入学するうえで重視すること

（４）調査対象

山形県栄養士会会員 667 名

（５）調査実施時期

平成 28 年 9～11 月

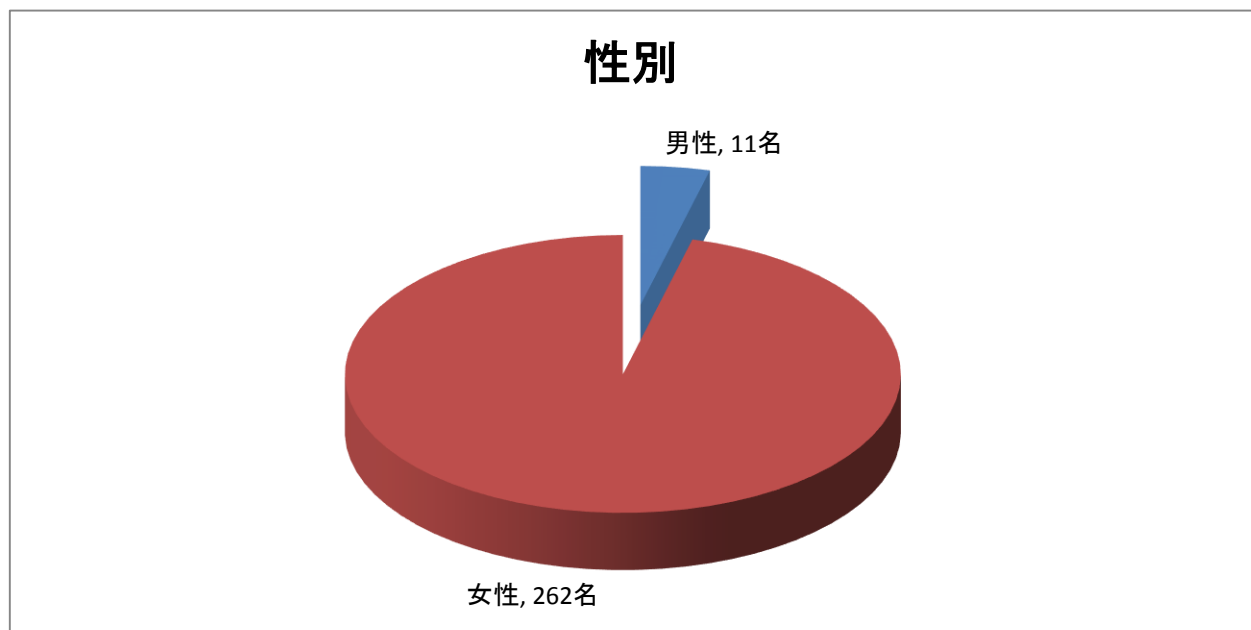
（６）回答状況

273 名（回答率：40.9%）

2 調査結果

（１）性別

回答のあった会員の性別は、以下のとおり。



(2) 所有資格

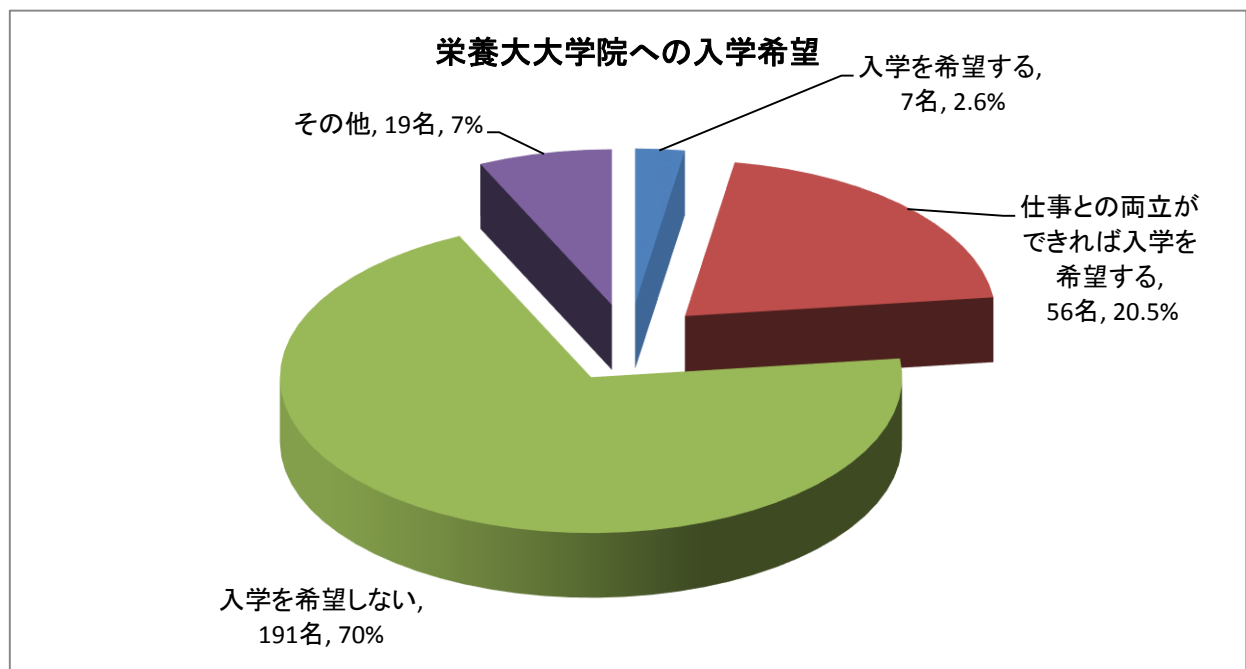
所有資格について、「管理栄養士」が 235 名 (86.1%)。

複数回答可

	人 数
栄養士	186 名
管理栄養士	235 名
栄養教諭一種免許	15 名
栄養教諭二種免許	12 名
その他	58 名
無回答	-

(3) 山形県立米沢栄養大学大学院への入学希望

山形県立米沢栄養大学大学院への入学希望について、「入学を希望する」及び「仕事との両立ができれば入学を希望する」と回答した会員の合計は 63 人 (23.1%)。



(4) 大学院入学の理由

大学院入学の理由について、「更に高度な知識・技術を身に付けたいから」が49名で最も多く1位に挙げている。

「大学院入学希望」及び「仕事との両立ができれば入学希望」と回答した者のみ対象の設問。優先度の高い順に3つまで回答。

	1位	2位	3位
更に高度な知識・技術を身に付けたいから	49 名	7 名	1 名
研究に取組み、専門性を深めたいから	5 名	32 名	7 名
現在の業務上で有利になるから	2 名	5 名	11 名
学位（修士号）が欲しいから	3 名	4 名	10 名
周囲から勧められているから	-	1 名	-
研究職に就きたいから	2 名	1 名	1 名
大学等の教員になりたいから	1 名	1 名	4 名
その他	-	1 名	-
無回答	1 名	11 名	29 名
計	63 名	63 名	63 名

(5) 大学院に入学するうえで重視すること

大学院に入学するうえで重視することについて、「研究・指導の内容」で28名、「職場からの支援」で11名、「夜間・休日の受講による修了」で10名が1位に挙げている。

「大学院入学希望」及び「仕事との両立ができれば入学希望」と回答した者のみ対象の設問。優先度の高い順に3つまで回答。

	1位	2位	3位
研究・指導の内容	28 名	6 名	8 名
職場からの支援	11 名	13 名	4 名
学費（入学金・授業料）	6 名	17 名	12 名
夜間・休日の受講による修了	10 名	13 名	11 名
長期履修制度	4 名	9 名	11 名
通学時間	3 名	4 名	6 名
施設・環境	-	-	4 名
その他	-	-	-
無回答	1 名	1 名	7 名
計	63 名	63 名	63 名

山公大第 202 号
平成28年9月21日

公益社団法人山形県栄養士会会員各位

山形県公立大学法人
理事長 鈴木 道子

「山形県立米沢栄養大学大学院」設置に関するアンケート調査について（依頼）

本法人の運営につきましては、日頃より格別の御協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本法人では、栄養健康分野の高度専門知識と実践力を有し、本県の健康づくりの現場で指導的役割を発揮する人材等を養成するため、山形県立米沢栄養大学健康栄養学部を基礎とした大学院の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、山形県栄養士会会員の皆様から、大学院設置に関する御意見をお伺いし、各種資料作成に活用させていただきたいと考えておりますので、本アンケート調査への御協力をお願いいたします。

なお、この調査は無記名式で、調査結果を調査目的以外に使用することはありません。

記

- 1 調査対象 公益社団法人山形県栄養士会会員の皆様
- 2 回答方法 別紙「調査票」を御記入いただき、同封の返信用封筒（切手不要です）により送付してください。
- 3 回答期限 平成28年10月31日（月）

【大学院の概要】（現在計画中の予定であり、変更することもあります。）

- （1）開 学 時 期：平成30年4月
- （2）研究科名称（仮称）：健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻（修士課程）
- （3）育 成 す る 人 材 像：
 - ①高度専門知識を有し、現場で指導的役割を担う人材の育成
 - ②専門的な業務への従事に必要な研究能力を持つ人材の育成
- （4）修 業 年 限：2年
- （5）定 員：3名（収容定員6名：男女共学）
- （6）入 学 料 ・ 授 業 料：入学料（県内者）282,000 円、（県外者）564,000 円
授業料（年 額）535,800 円
- （7）設 置 場 所：山形県米沢市通町六丁目15番1号（山形県立米沢栄養大学敷地内）
- （8）そ の 他：平日夜間及び土曜日の受講のみでも修了が可能となる履修制度を設ける予定です。

<担 当>

山形県公立大学法人事務局 飯澤、四柳
〒992-0025 山形県米沢市通町六丁目15番1号
TEL：0238-93-2932（直通） FAX：0238-22-7333

山公大第 203 号
平成28年9月21日

公益社団法人山形県栄養士会
会 長 西村 恵美子 様

山形県公立大学法人
理事長 鈴木 道子

「山形県立米沢栄養大学大学院」設置に関するアンケート調査の実施に
ついて（依頼）

本法人の運営につきましては、日ごろ格別の御高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、本法人では、現在、平成30年4月を目標に、山形県立米沢栄養大学健康栄養学部を基礎とした大学院の設置に向けた準備を進めております。

つきましては、貴会会員を対象とした標記調査を実施したいので、お忙しいところ誠に恐縮ですが、会員の皆様へのアンケートの送付方、御協力くださいますようお願い申し上げます。

なお、本調査の結果につきましては、調査目的以外に使用しないことを申し添えます。

<担 当>

山形県公立大学法人事務局 飯澤、四柳

〒992-0025 山形県米沢市通町六丁目15番1号

TEL : 0238-93-2932（直通） FAX : 0238-22-7333

「山形県立米沢栄養大学大学院」設置に関するアンケート調査票

○回答欄に、該当する番号を記入してください。

○「その他」の選択肢を選んだ場合は、() に具体的に記入してください。

【回答欄】

問1 あなたの性別をお答えください。

- 1 男性 2 女性

問2 あなたの年齢をお答えください。

- 1 20歳以上30歳未満 3 40歳以上50歳未満 5 60歳以上
2 30歳以上40歳未満 4 50歳以上60歳未満

問3 あなたの居住地域をお答えください。

- 1 村山地域（山形市、寒河江市、上山市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、山辺町、
中山町、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町）
2 最上地域（新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村）
3 置賜地域（米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町）
4 庄内地域（鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町、遊佐町）
5 県 外

問4 あなたがお持ちの資格についてお答えください（複数回答可）。

- 1 栄養士 3 栄養教諭一種免許 5 その他（ ）
2 管理栄養士 4 栄養教諭二種免許

問5 あなたが所属している職域学術部をお答えください。

- 1 学校健康教育 4 地域活動 7 福祉
2 研究教育 5 勤労者支援 8 その他（ ）
3 医療 6 公衆衛生

問6 あなたは現在設置準備中の本学大学院への入学を希望しますか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | | |
|----------------------|---|----------------|
| 1 入学を希望する | } | 問7、8、9をお答えください |
| 2 仕事との両立ができれば入学を希望する | | |
| 3 入学を希望しない | } | 問9をお答えください |
| 4 その他 () | | |

問7 あなたが大学院に入学したい理由をお答えください。次の中から優先度の高い順に、3つまで選んでください。

- | | |
|-----------------------|-----------------|
| 1 更に高度な知識・技術を身に付けたいから | 5 周囲から勧められているから |
| 2 研究に取組み、専門性を深めたいから | 6 研究職に就きたいから |
| 3 現在の業務上で有利になるから | 7 大学等の教員になりたいから |
| 4 学位（修士号）が欲しいから | 8 その他 () |

①	②	③

問8 あなたが大学院に入学するうえで、重視することは何ですか。次の中から優先度の高い順に、3つまで選んでください。

- | | |
|-----------------|-----------|
| 1 研究・指導の内容 | 5 長期履修制度 |
| 2 職場からの支援 | 6 通学時間 |
| 3 学費（入学金・授業料） | 7 施設・環境 |
| 4 夜間・休日の受講による修了 | 8 その他 () |

①	②	③

問9 「山形県立米沢栄養大学大学院」について、ご意見、ご要望がございましたら、ご自由にお書きください。

アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

「山形県立米沢栄養大学大学院」の設置に関するアンケート調査 【進学意向調査結果（米沢栄養大学在学学生）の概要】

1 調査概要

（１）調査主体

山形県公立大学法人

（２）調査目的

「山形県立米沢栄養大学大学院」の設置に向けて、栄養大の在学学生を対象に、本大学大学院への進学意向を把握することを目的とする。

（３）主要調査項目

- 山形県立米沢栄養大学大学院への現在の進学希望
- 山形県立米沢栄養大学大学院への進学理由
- 山形県立米沢栄養大学大学院への将来的な進学希望

（４）調査対象

山形県立米沢栄養大学健康栄養学部健康栄養学科の全在学学生（１～３年生、１３０名）

（５）調査実施時期

平成 28 年 10 月

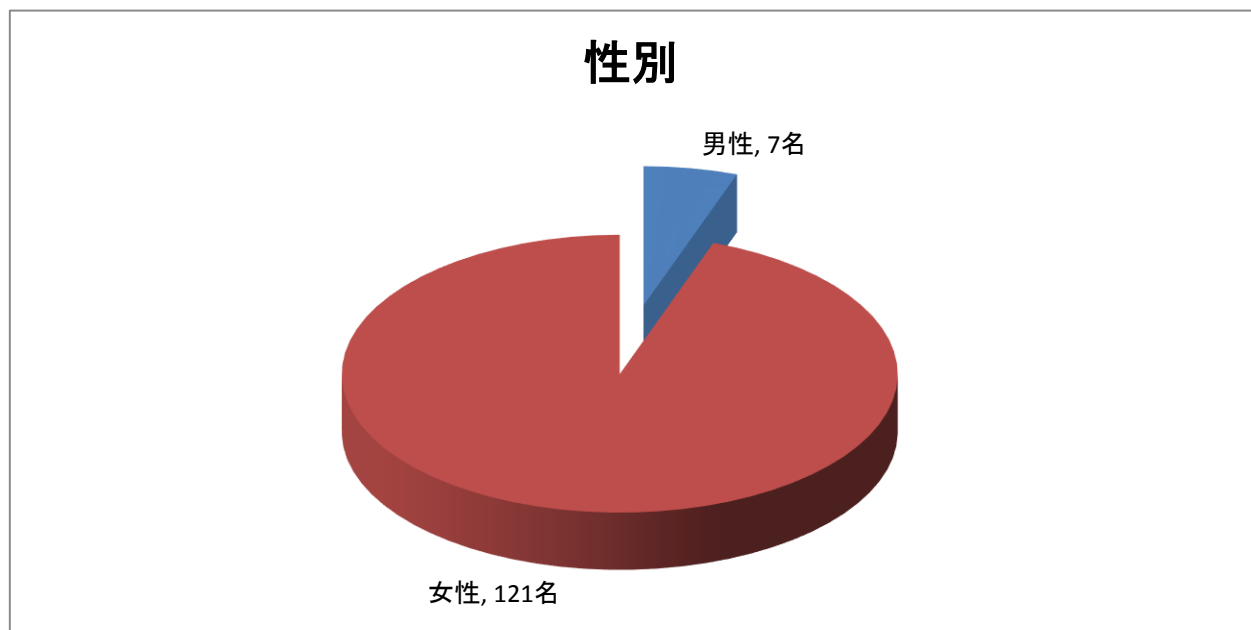
（６）回答状況

128 名（回答率：98.5%）

2 調査結果

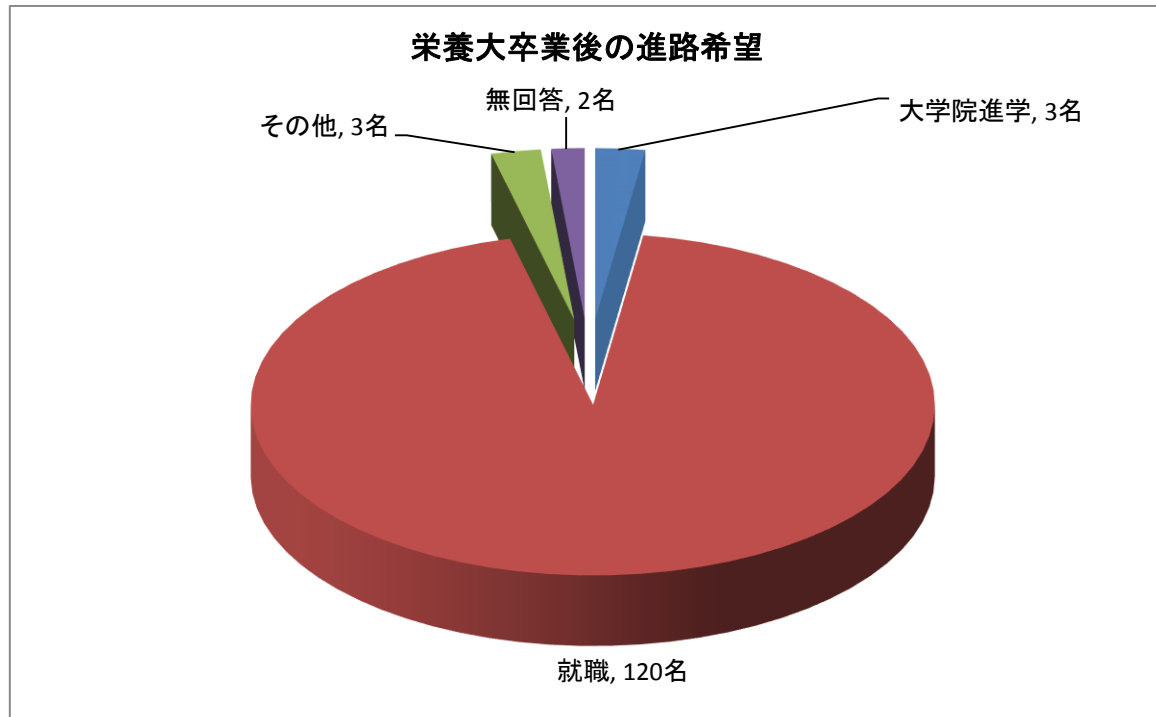
（１）性別

回答のあった在学学生の性別は、以下のとおり。



（２）栄養大卒業後の進路

栄養大卒業後の進路は、「大学院進学」が３名、「就職」が１２０名。「大学院進学」と回答した３名の学年内訳は、３年生が１名、２年生が２名。



（３）大学院進学の原因

大学院進学の原因について、「更に高度な知識・技術を身に付けたいから」が３名とも１位。「研究に取組み、専門性を深めたいから」、「就職に有利になるから」及び「学位（修士号）が欲しいから」が各１名で２位。

「大学院進学」と回答した者のみ対象の設問。優先度の高い順に３つまで回答。

	1位	2位	3位
現場で指導的役割を担いたいから			
研究に取組み、専門性を深めたいから		1名	1名
更に高度な知識・技術を身に付けたいから	3名		
就職に有利になるから		1名	
研究機関などで研究職に就きたいから			1名
大学等の教員になりたいから			
学位（修士号）が欲しいから		1名	
周囲から勧められているから			
その他			1名
計	3名	3名	3名

(4) 大学院に進学するうえで、重視すること

大学院に進学するうえで、重視することについて、「研究・指導の内容」が3名、「就職支援」、「学費（入学金・授業料）」及び「施設・環境」が各1名。

「大学院進学」と回答した者のみ対象の設問。2つまで回答。

	人 数
研究・指導の内容	3 名
就職支援	1 名
学費（入学金・授業料）	1 名
奨学金制度	－
施設・環境	1 名
その他	－
無回答	－

(5) 山形県立米沢栄養大学大学院への進学希望

山形県立米沢栄養大学大学院への進学希望について、「進学を希望する」が1名。

「大学院進学」と回答した者のみ対象の設問。

	人 数
進学を希望する	1 名
進学を希望しない	2 名
その他	－
無回答	－

(6) 将来社会人を対象とした大学院への進学希望

将来社会人を対象とした大学院への進学希望について、「進学を希望する」、「機会があれば希望する」、「就職後、必要性を感じた場合は希望する」及び「仕事と勉学の両立ができれば希望する」と回答した学生の合計は、73 名（59.4%）。

	人数	割合
進学を希望する	2 名	1.6%
機会があれば希望する	12 名	9.8%
就職後、必要性を感じた場合は希望する	45 名	36.6%
仕事と勉学の両立ができれば希望する	14 名	11.4%
進学は希望しない	49 名	39.8%
その他	1 名	0.8%
無回答	－	－
計	123 名	100%

山公大第 202 号
平成28年9月21日

山形県立米沢栄養大学在学生各位

山形県公立大学法人
理事長 鈴木 道子

「山形県立米沢栄養大学大学院」設置に関するアンケート調査について（依頼）

本法人では、栄養健康分野の高度専門知識と実践力を有し、本県の健康づくりの現場で指導的役割を発揮する人材等を養成するため、山形県立米沢栄養大学健康栄養学部を基礎とした大学院の設置に向けた準備を進めています。

つきましては、在学生の皆様から、大学院設置に関するご意見をお聞きし、各種資料作成に活用させていただきたいと考えておりますので、本アンケート調査への御協力をお願いいたします。

なお、この調査は無記名式で、調査結果を調査目的以外に使用することはありません。

記

- 1 調査対象 山形県立米沢栄養大学在学生（1～3年生）全員
- 2 回答方法・期限 担当教員の指示に従って回答・提出してください。

【大学院の概要】（現在計画中の予定であり、変更することもあります。）

- （1）開 学 時 期：平成30年4月
- （2）研究科名称（仮称）：健康栄養科学研究科健康栄養科学専攻（修士課程）
- （3）育 成 す る 人 材 像：
 - ①高度専門知識を有し、現場で指導的役割を担う人材の育成
 - ②専門的な業務への従事に必要となる研究能力を持つ人材の育成
- （4）修 業 年 限：2年
- （5）定 員：3名（収容定員6名：男女共学）
- （6）入 学 料 ・ 授 業 料：入学料（県内者）282,000 円、（県外者）564,000 円
授業料（年 額）535,800 円
- （7）設 置 場 所：山形県米沢市通町六丁目15番1号（山形県立米沢栄養大学敷地内）
- （8）そ の 他：平日夜間及び土曜日の受講のみでも修了が可能となる履修制度を設ける予定です。

＜担 当＞

山形県公立大学法人事務局 飯澤、四柳
〒992-0025 山形県米沢市通町六丁目15番1号
TEL：0238-93-2932（直通） FAX：0238-22-7333

(学生用)

「山形県立米沢栄養大学大学院」設置に関するアンケート調査票

○回答欄に、該当する番号を記入してください。

○「その他」の選択肢を選んだ場合は、() に具体的に記入してください。

【回答欄】

問1 あなたの性別をお答えください。

- 1 男性 2 女性

問2 あなたの学年をお答えください。

- 1 1年生 2 2年生 3 3年生

問3 あなたの出身地域をお答えください。

- 1 村山地域 (山形市、寒河江市、上山市、村山市、天童市、東根市、尾花沢市、山辺町、
中山町、河北町、西川町、朝日町、大江町、大石田町)
2 最上地域 (新庄市、金山町、最上町、舟形町、真室川町、大蔵村、鮭川村、戸沢村)
3 置賜地域 (米沢市、長井市、南陽市、高畠町、川西町、小国町、白鷹町、飯豊町)
4 庄内地域 (鶴岡市、酒田市、三川町、庄内町、遊佐町)
5 県 外

問4 あなたは本学卒業後どのような進路を希望しますか。次の中から1つだけ選んでください。

- 1 大学院進学 問5、6、7、9をお答えください
2 就職 } 問8、9をお答えください
3 その他 ()

問5 あなたが大学院に進学したい理由をお答えください。次の中から優先度の高い順に3つ
まで選んでください。

- | | |
|-----------------------|--|
| 1 現場で指導的役割を担いたいから | 6 大学等の教員になりたいから |
| 2 研究に取組み、専門性を深めたいから | 7 学位(修士号)が欲しいから |
| 3 更に高度な知識・技術を身に付けたいから | 8 周囲から勧められているから |
| 4 就職に有利になるから | 9 その他 () |
| 5 研究機関などで研究職に就きたいから | |

①	②	③

裏面に続く

(学生用)

問6 あなたが大学院に進学するうえで、重視することは何ですか。次の中から2つまで選んでください。

- | | |
|---------------|-------------------------------|
| 1 研究・指導の内容 | 4 奨学金制度 |
| 2 就職支援 | 5 施設・環境 |
| 3 学費（入学金・授業料） | 6 その他（ ） |

--	--

問7 あなたは現在設置準備中の本学大学院への進学を希望しますか。次の中から1つだけ選んでください。

- | |
|-------------------------------|
| 1 進学を希望する |
| 2 進学を希望しない |
| 3 その他（ ） |

--

問8 あなたは将来社会人を対象とした大学院への進学希望はありますか。次の中から1つだけ選んでください。

- | | |
|----------------------|-------------------------------|
| 1 進学を希望する | 4 仕事と勉学の両立ができれば希望する |
| 2 機会があれば希望する | 5 進学は希望しない |
| 3 就職後、必要性を感じた場合は希望する | 6 その他（ ） |

--

問9 「山形県立米沢栄養大学大学院」について、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

アンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。